

SEGUFIX[®]

SEGUFIX[®]

システム

取扱説明書

「看護スタッフをサポートし、
患者さんの苦痛を緩和するために」

Prof.Dr.Dr.h.c.Bürger-Prinz開発および推奨製品
(Hamburg-Eppendorf 大学病院)

●お求めとお問い合わせは

総輸入販売元  株式会社 **フロンティア**

本社 / 〒113-0034 東京都文京区湯島2丁目25番7号
TEL.03-5807-7721 FAX.03-5807-7722
<http://www.frontier-med.co.jp>

●商品写真は印刷のため実際の色調と異なる場合がございます。
●商品の仕様は改良のため予告なく変更する場合がございますのでご了承ください。
●商品は在庫を豊富にご用意しておりますが、万一品切れの際はお届けまで多少期間をいただく場合もございます。
※本カタログに記載されております全商品の価格には、消費税は含まれておりません。

総輸入販売元  株式会社 **フロンティア**

目次

安全上の注意事項	2
お手入れ方法	3
SEGUFIX® パテントボタンセット／マグネットキー	4
SEGUFIX® ターンボタンセット／ターンキー	5
SEGUFIX® 腹部用ベルト	6
SEGUFIX® 抜け出し防止帯	8
SEGUFIX® 肩部調整帯	10
SEGUFIX® 手部調整帯	11
SEGUFIX® 脚部調整帯セット	13
SEGUFIX® クイック転落防止帯 2222	15
SEGUFIX® コンパクト	18
SEGUFIX® 車イス用腹部ベルト	20
SEGUFIX® 車イス用腹部ベルトクラッチ付	20
SEGUFIX® 車イス用腰ベルトボタンタイプ	21
SEGUFIX® 車イス用サスペンダータイプ	21
SEGUFIX® 車イス用手部調整帯	22
SEGUFIX® 車イス用脚部調整帯	22
SEGUFIX® クラッチ付腹部用ベルト	23
SEGUFIX® ストレッチャー用腹部ベルト	24
SEGUFIX® ハンドストラップ	25

安全上の注意事項

必ず本取扱書を読み、取扱い方法を理解するまでは、SEGUFIXを装着または使用しないでください。本システムを正しく使用しないと、おもわぬ事故を招く危険性があります。患者の安全を守るためにも、SEGUFIXシステムは必ず正しい方法で装着・使用してください。

- 使用目的：**
SEGUFIX製品は、製品の用途として定められている医療以外の目的に使用しないでください。当社の規定する取扱い方法を厳守してください。
- 使用前の点検：**
使用前には、縫い目がほつれている部分、裂傷、磨耗、擦り切れた箇所、またベルトの鳩目に損傷がないかどうかを点検してください。これらの製品は老朽化により損傷をきたす恐れがあります。製品に損傷個所がある場合には使用しないでください。
- SEGUFIXベルトが正しく固定されていることを確認してください：**
事故防止のため、ベルトが正しく固定されているかどうか頻繁に確認するようにしてください。ベルトがマットレスに固定され、どの方向にもずれて移動することがないように、ベッドのフレーム（またはベッドフレームの可動部分）にしっかりと固定されている必要があります。
- 必ず適切なサイズの製品を使用してください：**
患者の体形に合わせて選択してください。サイズが小さすぎたり大きすぎる製品は、患者に不快感を与えたり安全性を阻害します。
- 危険物の排除：**
患者の周囲には、損傷を招く恐れのある物（例えば、眼鏡、宝飾品類、鋭利の物）を置かないようにしてください。
- ベルトは呼吸を妨げない程度に体にぴったりと装着してください：**
ベルトは体にぴったりと装着しますが、締め付けすぎで患者の呼吸を妨げるようなことがないようにします。ベルトと患者の体の間で看護スタッフの広げた手が横に動かせる位に装着してください。締め付けが過ぎると患者が自分自身に危害を与える恐れがあります。
- 寝返り調整帯を常に取り付けた状態で使用してください：**
腹部用ベルトは、必ず寝返り調整帯をベッドに取り

付けた状態で使用してください！寝返り調整帯は患者がベッドの上で回転しないようにするためのものです。ストラップを取り付けないと、患者がベッドの端で寝返りをうったりもがいたりして転落する可能性があります。

- ベッドのサイドレールを使用してください：**
事故を防止するためサイドレールを必ず上位で固定してください！**注意：**分割型のサイドレールと一緒に使用しないでください。分割型のサイドレールを使用すると、ベルトを締めていてもサイドレールから隙間から患者が抜け出る恐れがあります。サイドレールを使用しないと、患者が腰部分でベッド端にぶら下がってしまい、窒息する恐れがあります。

- パテントボタン（ターンボタン）は液体に触れると正常に機能しなくなります：**
いかなる液体にも、パテントボタン（ターンボタン）を浸さないでください。液体が浸透すると正常に機能しなくなります。パテントボタン（ターンボタン）を解除できなくなった場合でも、ストラップはハサミかベルト・カッターで切断できます。

- SEGUFIXオリジナル製品だけを使用してください：**
高度な品質・安全性要求を確保するため、SEGUFIX商標ロゴのあるSEGUFIXオリジナル製品だけを使用してください。

- ペースメーカーに関する警告：**
患者に植込まれているペースメーカーとSEGUFIXマグネットキーの間は、常に10cm（4インチ）はなしてください。患者の体内が頻脈をきたす恐れがあります。患者の体内に埋め込まれている製品は強力な磁気による干渉を受ける可能性があります。この件については各製品製造元の取扱指示を参照してください。

- 患者を頻繁に巡回してください：**
転落防止帯を装着している患者は頻繁に巡回する必要があります。攻撃型、興奮状態、静止不能な患者や吸引の危険のある患者の場合には、継続的に巡回する必要があります。

お手入れ方法

- SEGUFIX転落防止帯は湯温95℃までの洗濯が可能です。温度が低い方が製品は長持ちします。下洗いをしないと8%程度縮む可能性があります。ベルトの洗濯と乾燥には、洗濯機と乾燥機を利用してください。その際、ベルトの金属部分に圧が加わらないようにしてください。金属部分が屈折する恐れがあります。

洗 剤：素材を傷めない侵襲性の低い洗剤を使用してください。柔軟剤、漂白剤は使用しないでください。

乾燥機：サイクルは低温の弱にセットしてください。

- 洗濯・乾燥の前には、全てのSEGUFIXパテントボタン（ターンボタン）を取り外してください。パテントボタン（ターンボタン）を洗濯乾燥すると、パテントボタン（ターンボタン）が損傷して正しく機能しなくなります。パテントボタン（ターンボタン）が汚れた場合には、湿らせた布や洗剤で汚れをふき取ってください。パテントボタン（ターンボタン）はどのような液体にも浸さないでください。液体に浸すと正しく機能しなくなります。

SEGUFIX® パテントボタンセット／マグネットキー

注意：

- いかなる液体にも、パテントボタンを浸さないでください。液体に浸すと正常に機能しなくなります。
- SEGUFIXパテントボタンを使用する前に、製品がしっかりとロックするかどうか点検し、磨耗及び裂傷箇所がないことを確認してください。
- ピンのヘッド部に欠陥や損傷がないかどうか点検してください。
- パテントボタンをロック（固定）した後は、パテントボタンがピンから引き離せない状態となっていなければなりません。

パテントボタンおよびマグネットキーの使用方法

SEGUFIXパテントボタンの解除：

- 赤いSEGUFIXマグネットキー（A）を黒いSEGUFIXパテントボタン（B）の上部に軽く押し当てます。
- パテントボタンを解除する場合は、パテントボタンにストラップからの圧力が加わっていない状態で行ってください。パテントボタンがストラップときつく固定されているとロック解除できません。
- マグネットキー（A）を黒いSEGUFIXパテントボタン（B）と一緒にピン（C）から引き上げます。これでパテントボタンは解除されました（写真1）。

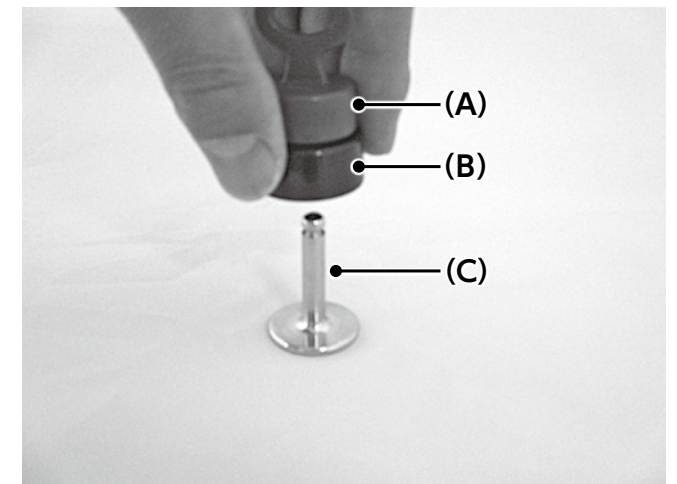


写真1

SEGUFIXパテントボタンの固定：

- 黒いSEGUFIXパテントボタン（B）をピンにかぶせます。カチッという音が感触があれば、ロックされています。
- 引き続きしっかりと固定されているかどうか確認します。パテントボタンをピンから引き離すことができれば、正しく固定されています。

SEGUFIX[®] ターンボタンセット／ターンキー

注意：

- SEGUFIXターンボタンを使用する前に、製品がしっかりとロックするかどうか点検し、磨耗及び裂傷箇所がないことを確認してください。
- スクエアピンのヘッド部に欠品や損傷がないかどうか点検してください。
- ターンボタンをセット（固定）した後は、緑色のターンボタンがピンから引き離せない状態となっていなければなりません。

ターンボタンセットおよびターンキーの使用方法

SEGUFIXターンボタンセットの解除：

- 黄色いターンキー（A）を緑色のターンボタン（B）の上部にはめます（写真1）。
- カチッという音が聞こえるか、カチッという感触を得るまでターンキーでターンボタンを回転させます。
- ターンキー（A）を緑のターンボタン（B）と一緒にスクエアピン（C）から引き上げます。これでターンボタンは解除されました（写真2）。

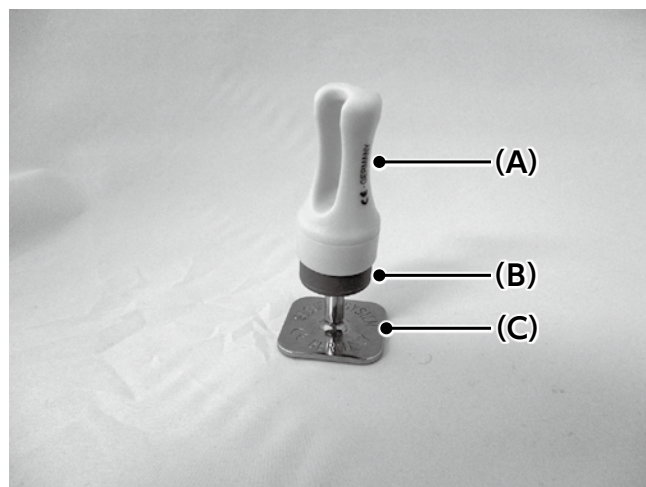


写真1

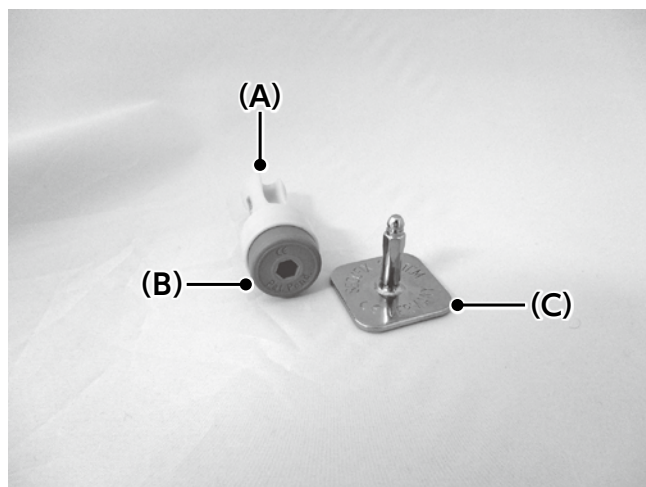


写真2

SEGUFIXターンボタンセットの固定：

- 緑のSEGUFIXターンボタン（B）をスクエアピン（C）にかぶせます。カチッという音か感触があれば、ロックされています。
- これでターンボタンは固定されました。
- 引き続きしっかりと固定されているかどうか確認します。ターンボタン（B）をスクエアピン（C）から引き離すことができれば、正しく固定されています。

SEGUFIX[®] 腹部用ベルト

用 途：静止不能な患者や闘争的な患者の固定および褥瘡（床擦れ）の予防

製品構成：腹部用ベルト ×1

※ 取り付けにはパテントボタンセット（ターンボタンセット）×3（別売）が必要です。

注意：腹部用ベルトを不適切に使用すると患者が深刻な損傷を受けたり窒息する恐れがあります。このため、以下の注意事項を厳守してください。

- 腹部用ベルトは、必ず寝返り調整帯をベッドに取り付けた状態で使用してください。寝返り調整帯を取り付けないと、患者がベッドの端で寝返りをうったりもがいたりして転落する可能性があります。
- サイドレールを必ず上位で固定してください。
- ベッドのフレームかベッドの可動部分のフレームにしっかりと固定してください。また、ギャッジアップ機能を使用する際は必ずベッドの可動部分のフレームに固定してください。（ベッドの可動部分のフレームに固定する際は、ベッドの床面にある適当な箇所の穴にベルトを入れ折り返す形で固定します。マットレスの裏面でベルトを一周させる形では固定しないでください。）
- サイドレールが上位で固定され、寝返り調整帯が取り付けられていても、場合によっては患者がベッドから転落する可能性があります。そのような場合には、SEGUFIX抜け出し防止帯の利用や手部調整帯または脚部調整帯等の追加の調整措置をとってください。

注記：

- 寝返り調整帯は、患者がベッドの上で起き上がって座ることを防止できません。これを防止する場合には、これを目的に開発された製品であるSEGUFIX肩部調整帯などを使用してください。
- 患者が腹部用ベルトから抜け出ることを防止したい場合には、抜け出し防止帯を使用することができます。

腹部用ベルトの使用方法

腹部用ベルトをパテントボタン（ターンボタン）でベッドに取り付ける方法：

- 鳩目ストラップ（B）のついた太いベッド固定用ベルト（A）を、ベッド上の患者の腹部の高さとなる部分に、「SEGUFIX」と記載されているタブ（C）があお向けに寝た状態の患者の左手側にくるように置きます（写真1）。
- 両サイドの鳩目ストラップ（B）を、マットレスとベッドフレーム（可動式ベッドの場合には可動部分のフレーム）の間に通します。また鳩目ストラップがベッドの可動機構を妨げることがないように注意しながら、鳩目ストラップをベッドフレーム／移動部分のフレームに直接巻き付けて強く引っ張ってください（写真2）。移動フレームに巻き付ける際は、フレームにある穴などにベルトを通して折り返す形でフレームに固定してください。ストラップを引っ張り、パテントボタン（ターンボタン）のピンを鳩目に通します。
- パテントボタン（ターンボタン）をピンに固定してロックします。ベッド固定用ベルトは使用する前にベッドにしっかりと固定してください。

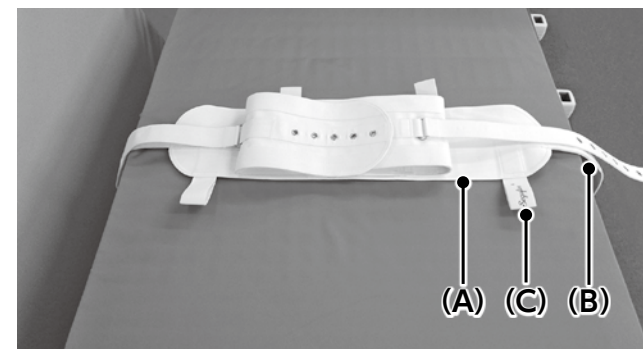


写真1

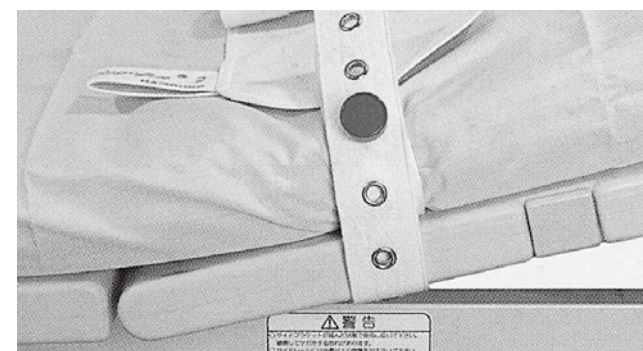


写真2

腹部用ベルトを患者に固定する方法：

- 腹部用ベルトの内側には、固定されているパテントボタン（ターンボタン）のピンを留めておく穴があるため、ピンが外れ落ちることはありません。腹部用ベルトを締めたときにパテントボタン（ターンボタン）が患者の体の中心に来るようにピンに通せる鳩目を選びます。
- 腹部用ベルト（D）を患者の胃の上（患者の腰や胸ではなく腹部の高さ）に巻き付け、パテントボタン（ターンボタン）で固定します。複数の鳩目が付いているので、腹部用ベルトを患者それぞれの腹部サイズに合うように調整することができます（写真3）。
- 腹部用ベルトは腹部にぴったりと固定しますが、きつく締めすぎて、患者の呼吸が阻害されるようなことがないように注意してください。ベルトと患者の間に開いた手を水平に移動させることができる程度に固定します。

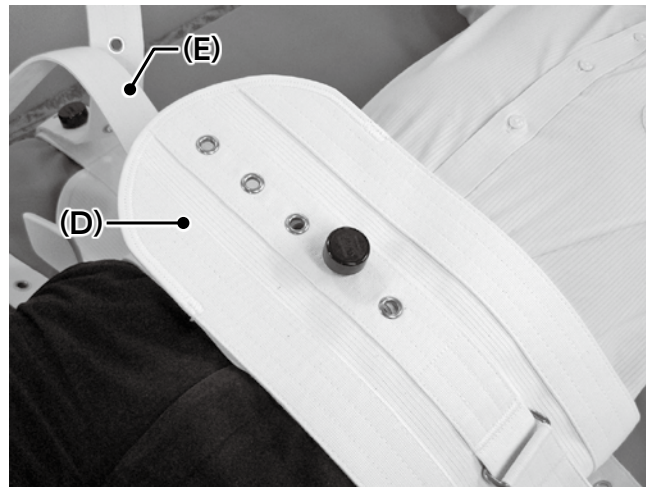


写真3

- 寝返り調整帯（E）の鳩目を幅広のベッド固定用ベルトのピンに通し、ピンにパテントボタン（ターンボタン）をセットします（写真4）。
- 医師の判断により患者が左右に動くことができるようにベルトを装着させたい場合でも、複数の鳩目があるため、そのように調整することができます。
- いかなる状況でも、寝返り調整帯を必ず使用してください。寝返り調整帯を使用しないと、患者がベッドから転落する可能性があります。
- 全てのパテントボタン（ターンボタン）がしっかりと固定されていることを確認します。パテントボタン（ターンボタン）をピンから引き離すことができなければ、正しく固定されています。

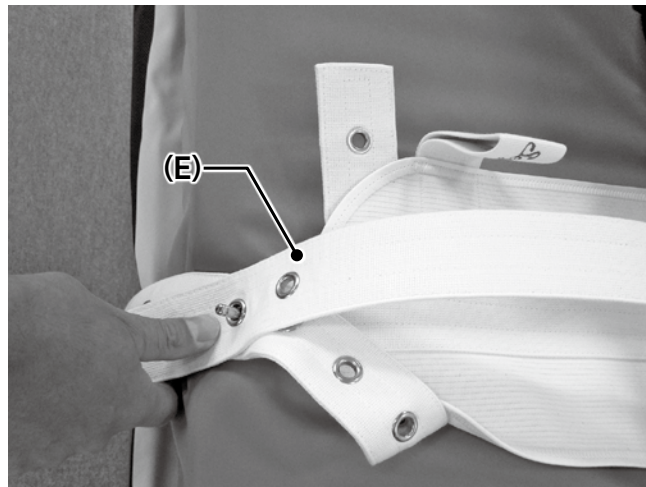


写真4

患者の身体を横向きに固定する方法（褥瘡の予防を目的とする場合など）：

- 患者が協力的でない場合には、横向きに固定することはできませんが、その場合には下記の手順で固定します。
- 患者を横向きに固定するためには、あらかじめ固定した腹部用ベルトで患者を向かせたい側に回転させ、ベッド固定用ベルト（A）のパテントボタン（ターンボタン）に寝返り調整帯（E）を固定します。
- 脚部調整帯と一緒に使用すれば、横向きの体位を補強することができます。
- 患者を横向きに固定した場合には、必ずベッドにサイドレールを上位で取り付けてください。
- 全てのパテントボタン（ターンボタン）がしっかりと固定されていることを確認します。パテントボタン（ターンボタン）をピンから引き離すことができなければ、正しく固定されています。

SEGUFIX[®] 抜け出し防止帯

用途：SEGUFIX抜け出し防止帯は患者が腹部用ベルトから抜け出すことを防止するためのベルトです。

製品構成：抜け出し防止帯 ×1

※ 取り付けにはパテントボタンセット（ターンボタンセット）×1（別売）が必要です。

注記：

- SEGUFIX抜け出し防止帯は必ず腹部用ベルトと一緒に使用してください。
- SEGUFIX抜け出し防止帯は患者がベッドの上に起き上がることを防止するものではありません。患者がベッド上で起き上げることを防止したい場合には、SEGUFIX肩部調整帯を使用する必要があります。

抜け出し防止帯の使用法

SEGUFIX抜け出し防止帯を腹部用ベルトに取り付ける方法：

- SEGUFIX抜け出し防止帯は3本の連結鳩目ストラップ（A1/A2、B、C）から構成されています。
- 3本の鳩目ストラップのうち最も長いストラップ（A1/A2）をベッド上で腹部用ベルト（F）と並行に置きます。向い合せに、ピンの穴は上向きになるようにします。ベルトの中心が三角形（トップの頂点がベッドのヘッドに向かった三角形）となるように、ベッドの上に配置してください。
- 長い鳩目ストラップ（A1/A2）の両端を、腹部用ベルト（F）にある各ループ（D）に通して強く引っ張ります（写真1）。

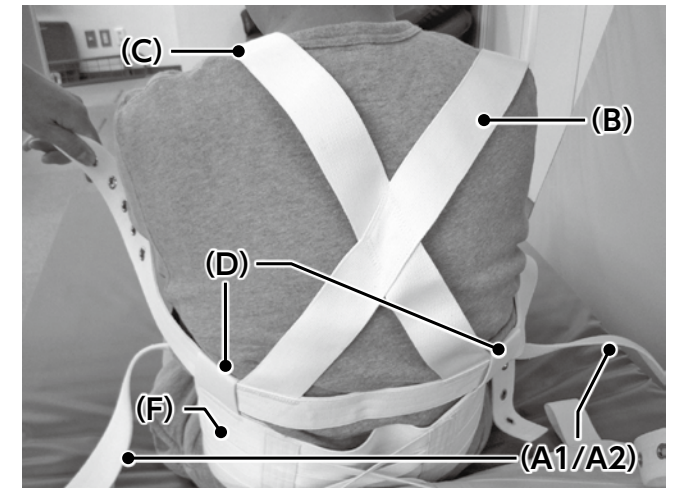


写真1
SEGUFIX抜け出し防止帯の背面写真

SEGUFIX抜け出し防止帯を患者に取り付ける方法：

- 抜け出し防止帯を取り付ける前に、腹部用ベルトを患者の腹部に巻き付け、パテントボタン（ターンボタン）で固定しておきます。
- 患者の肩の方の上から鳩目ストラップ（BとC）を引っ張ってきて、腹部用ベルトの中央部分にあるロックされていないパテントボタン（ターンボタン）のピンにそれぞれ鳩目を重ねます。ピンにパテントボタン（ターンボタン）をセットしてパテントボタン（ターンボタン）を固定します。このとき、抜け出し防止帯のパテントボタン（ターンボタン）がストラップの上についた状態となります。
- 鳩目ストラップ（A1）を患者の右肩の下から右肩の鳩目ストラップ（B）の3つの通し穴のいずれか1つ（E）に（患者の体格に合わせて）通します（写真2）。この鳩目ストラップ（A1）がピンの上にくるように患者の体にしっかりと沿わせま。ピンの位置は患者の体格に合わせて変えることができます。

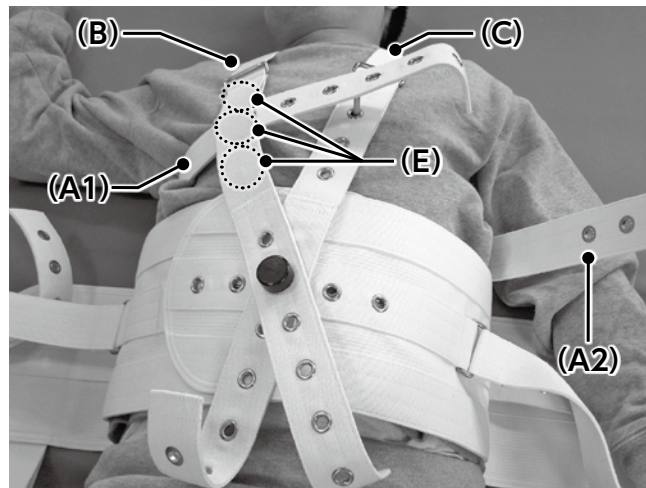


写真2

- 次に、鳩目ストラップ（A2）を患者の左肩の下から通します。このストラップもほかのストラップと同じくらいしっかりと引っ張り、ピンの上に鳩目がくるようにします。
- ピンにパテントボタン（ターンボタン）をセットして、固定します（写真3）。抜け出し防止帯はこれで安定します。
- 患者の顎部や咽喉がストラップで圧迫されることがないようにしてください。
- ストラップは体にぴったりと装着しますが、締め付けすぎて患者の呼吸を妨げるようなことがないようにします。ベルトと患者の体の間で看護スタッフの広げた手が横に動かせる位に装着してください。
- 全てのパテントボタン（ターンボタン）がしっかりと固定されていることを確認します。
- パテントボタン（ターンボタン）をピンから引き離すことができれば、正しく固定されています。

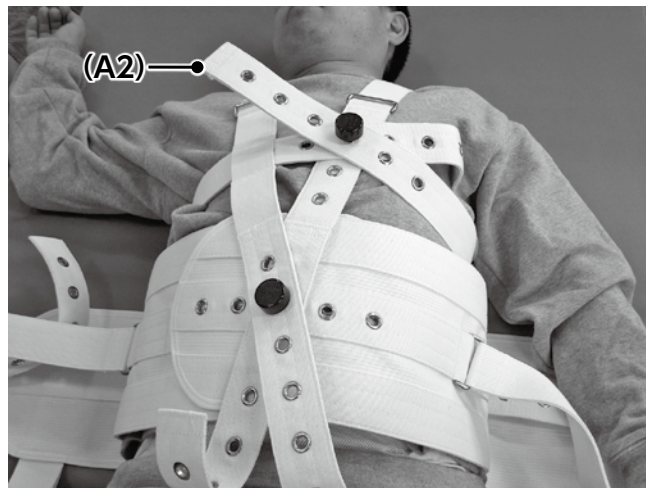


写真3

SEGUFIX® 肩部調整帯

用途：SEGUFIX肩部調整帯は患者が起き上がるのを防止します。

製品構成：SEGUFIX肩部調整帯 ×2

※ 取り付けにはパテントボタンセット（ターンボタンセット）×2（別売）が必要です。

注記：

- 肩部調整帯を装着した患者は継続的に巡回する必要があります。
- 肩部調整帯は、SEGUFIX抜け出し防止帯および腹部用ベルトまたはSEGUFIXクイック胸部調整帯、SEGUFIXコンパクトに取り付けて使用するベルトです。

肩部調整帯の使用方法

SEGUFIX肩部調整帯を抜け出し防止帯に取り付ける方法：

- 肩部調整帯の二重裏地の鳩目が裏になるようにします。
 - 抜け出し防止帯の金属製バックル（A）に肩部調整帯を患者の頭方向から通します。
- この時肩部調整帯の金属製バックルがない方を通します（写真1）。

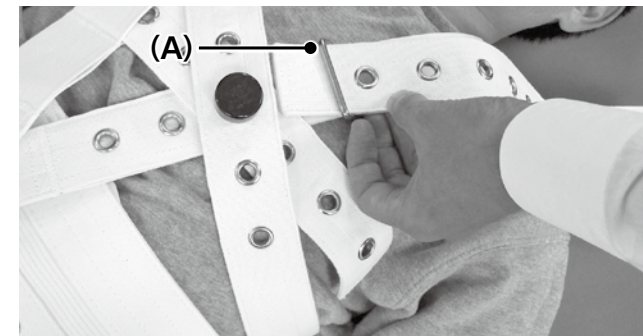


写真1

- 抜け出し防止帯の金属製バックルに通した後、肩部調整帯を折り返す形で肩部調整帯の金属製バックルに通し引っ張ります。鳩目が表面に来たらパテントボタン（ターンボタン）のピンを入れます（写真2）。

※ 胸部クイック調整帯、コンパクトに取り付ける場合も、上記と同様の方法となります。

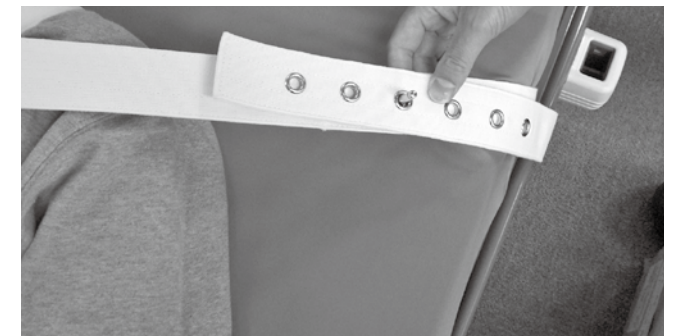


写真2

SEGUFIX肩部調整帯をベッドに取り付ける方法：

- 肩部調整帯の鳩目ストラップをベッドの稼動部分のフレーム（もしくはベッドフレーム）の隙間に通して引っ張ります。
- この時ストラップに緩みがないように引っ張ってください。
- また、患者の顔からなるべく遠い位置になるようにベッドに取り付けてください。顔に近い位置で肩部調整帯を使用すると、事故につながる恐れがあります。
- 肩部調整帯の鳩目ストラップを先程鳩目に入れたピンに合わせてパテントボタン（ターンボタン）で留めます（写真3）。
- もう1本の肩部調整帯も同様の方法で留めます。
- 全てのパテントボタン（ターンボタン）がしっかりと固定されていることを確認します。
- パテントボタン（ターンボタン）をピンから引き離すことができれば、正しく固定されています。



写真3

SEGUFIX[®] 手部調整帯

用 途：片腕もしくは両腕の固定（調整可能）。患者が自身や他人に危害を及ぼすことを防止。

製品構成：手部調整帯 ×1

※ 取り付けにはパテントボタンセット（ターンボタンセット） ×1（別売）が必要です。

注記：

- SEGUFIX手部調整帯は腹部用ベルトに取り付けて使用するベルトです。
- 上肢固定のみを行いたい場合はハンドストラップをご利用ください。ストラップが手部調整帯よりも長く、単独でベッドフレームに取り付けできます。

手部調整帯の使用方法

SEGUFIX手部調整帯を患者の手首に固定する方法：

- パット面を下にして、また鳩目ストラップがベッドの中心側にくるように手部調整帯をベッドの上に置きます。
- パット部の鳩目にパテントボタン（ターンボタン）のピンを入れます。手部調整帯のパット部分を患者の手首に巻きつけます。巻き付けた後にカフがすり抜けないようにカフの端にはベルクロテープが付いています。
- 鳩目ストラップを金属製バックルに通して、ストラップがバックルにかぶさるようにしっかりと引き戻します（写真1）。
- 鳩目ストラップを強く引っ張り、ピンにパテントボタン（ターンボタン）をセットしてロックします（写真2）。
- 手部調整帯のカフは手首にしっかりと巻き付けますが、血液循環が抑制されることがないようにしてください。
- 全てのパテントボタン（ターンボタン）がしっかりと固定されていることを確認します。パテントボタン（ターンボタン）をピンから引き離すことができれば、正しく固定されています。



写真1



写真2

SEGUFIX手部調整帯を腹部用ベルトに取り付ける方法： 上肢部が適度に動けるように付ける場合：

- 腹部用ベルトのベッドに固定している部分のパテントボタン（ターンボタン）を一度解除します。
- 患者の手首に巻き付けた手部調整帯の鳩目ストラップの先の鳩目を腹部用ベルトの外したピンに合わせてパテントボタン（ターンボタン）で留めます（写真3）。
- 全てのパテントボタン（ターンボタン）がしっかりと固定されていることを確認します。
パテントボタン（ターンボタン）をピンから引き離すことができれば、正しく固定されています。



写真3

上肢部を動けないように付ける場合：

- 腹部用ベルトのベッドに固定している部分のパテントボタン（ターンボタン）を一度解除します。
- 腹部用ベルトのベッド固定用ベルトに付いているループ（A）に手部調整帯の鳩目ストラップを通します（写真4）。
- 腹部用ベルトの外したピンに手部調整帯の鳩目を合わせてパテントボタン（ターンボタン）で留めます。
- 全てのパテントボタン（ターンボタン）がしっかりと固定されていることを確認します。
パテントボタン（ターンボタン）をピンから引き離すことができれば、正しく固定されています。

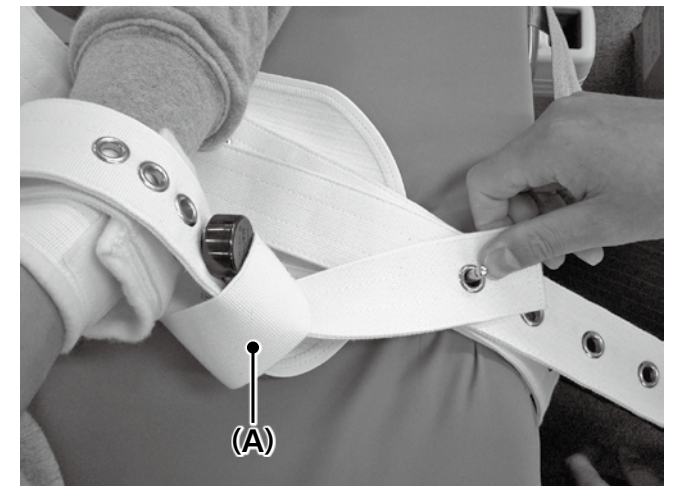


写真4

SEGUFIX[®] 脚部調整帯セット

用 途：片足または両足の固定

製品構成：SEGUFIX脚部調整帯	×2
SEGUFIX脚部用ベルト	×1
SEGUFIXパテントボタンセット (ターンボタンセット)	×4

脚部調整帯セットの使用方法

SEGUFIX脚部用ベルトをベッドに取り付ける方法：

- ループ (B) 面を上にしてSEGUFIX脚部用ベルト (A) を患者の足首の位置に合わせてベッドの上に置きます (写真1)。
- 鳩目ストラップをベッド両サイドのマットレスとフレーム (可動式ベッドの場合には、ベッドの可動部分のフレーム) の間に通します。ストラップがベッドのフレーム／可動部分のフレームにしっかりと巻きつくようにフレームの手前から外側に向かって強く引っ張られていることを確認してください。この時、ベッドの可動機構が阻害されないようにしてください。ストラップを強く引っ張り、パテントボタン (ターンボタン) のピンに適切な鳩目をはめ込みます。
- パテントボタン (ターンボタン) をピンにセットしてロックします。脚部用ベルトがベッドにぴったりと固定されるようにしてください。

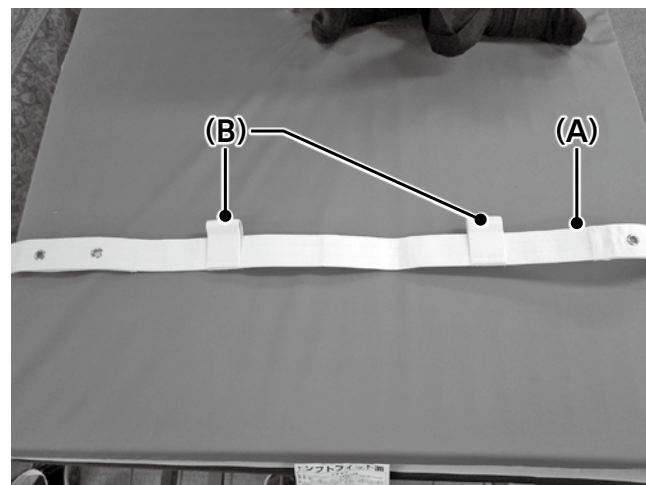


写真1

SEGUFIX脚部調整帯を患者の足首に固定する方法：

- パット面を下にして、また鳩目ストラップがベッドの中心側にくるように脚部調整帯をベッドの上に置きます。鳩目にパテントボタン (ターンボタン) のピンを通します。
- 脚部調整帯のパット部分を患者の足首に巻きつけます。巻き付けた後にカフがすり抜けないようにカフの端にはベルクロ[®] テープが付いています (写真2)。
- 鳩目ストラップ (C) を金属製バックルに通して、ストラップがバックルにかぶさるようにしっかりと引き戻します (写真3)。
- 鳩目ストラップを強く引っ張り、ピンにパテントボタン (ターンボタン) をセットしてロックします (写真4)。
- 脚部調整帯のカフは足首にしっかりと巻き付けますが、血液循環が抑制されることがないようにしてください。
- 全てのパテントボタン (ターンボタン) がしっかりと固定されていることを確認します。パテントボタン (ターンボタン) をピンから引き離すことができれば、正しく固定されています。



写真2



写真3



写真4

SEGUFIX脚部調整帯を脚部用ベルトに取り付ける方法： 下肢部が動けないようにベッドに固定する場合：

- 脚部調整帯の鳩目ストラップ (C) をSEGUFIX脚部用ベルト (A) のループ (B) に通して、ベッドの脇に向けて引っ張ります (写真5)。
- 脚部用ベルトの (A) パテントボタン (ターンボタン) を解除した後、鳩目ストラップを強く引っ張り、適当な鳩目をピンにはめ込みます。パテントボタン (ターンボタン) をピンにセットしてロックします。
- 全てのパテントボタン (ターンボタン) がしっかりと固定されていることを確認します。パテントボタン (ターンボタン) をピンから引き離すことができれば、正しく固定されています。

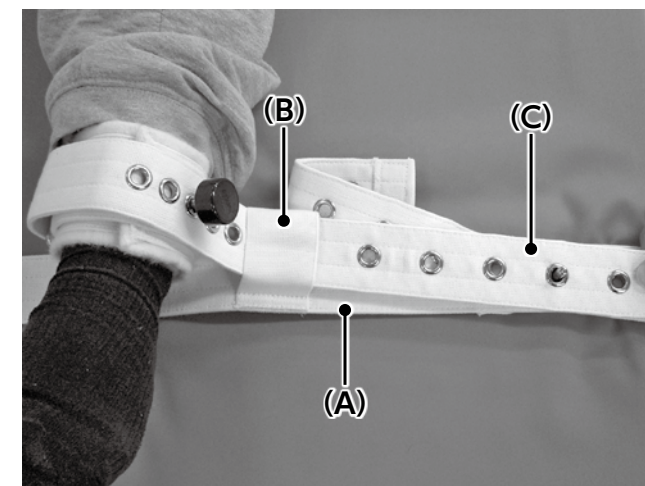


写真5

下肢部が適度に動けるようにベッドに固定する場合：

- 脚部用ベルト (A) のパテントボタン (ターンボタン) を解除します。
- 脚部調整帯の鳩目ストラップ (C) を脚部用ベルト (A) のピンの上に鳩目が合うように置き、パテントボタン (ターンボタン) で固定します。脚部がどの程度動けるようにするかは、希望する動きの範囲に適した鳩目を選択することで調節することができます。
- 全てのパテントボタン (ターンボタン) がしっかりと固定されていることを確認します。パテントボタン (ターンボタン) をピンから引き離すことができれば、正しく固定されています。

用途：緊急時に素早く患者の全身固定をする際に用いる。

製品構成：胸部クイック調整帯	× 1
大腿部クイック調整帯	× 1
手部クイック調整帯	× 1
脚部クイック調整帯	× 1
パテントボタンセット（ターンボタンセット）	× 17
マグネットキー（ターンキー）	× 2

胸部クイック調整帯、手部クイック調整帯、脚部クイック調整帯、大腿部クイック調整帯の使用方法

SEGUFIX胸部クイック調整帯をベッドに取り付ける方法：

- 胸部クイック調整帯は、ベッドの可動部分のフレームに取り付けるための鳩目ストラップ (B) が2本付いた太いベッド固定用ベルト (C) から構成されています。
- ベッド固定用ベルト (C) の小さい方の鳩目ストラップ (D) をベッドのヘッドに向けて、胸部クイック調整帯をベッドの上に患者の胸の高さとなるように置きます。このとき、パット付き胸部用ベルト (A) はベッド固定用ベルトの上に置かれた状態となります (写真1)。
- 鳩目ストラップ (B) をベッド両サイドのマットレスとフレーム (可動式ベッドの場合には、ベッドの可動部分のフレーム) の間に通します。ストラップがベッドのフレーム／可動部分のフレームにしっかりと巻きつくようにフレームの手前から外側に向かって強く引っ張ります。このとき、ベッドの可動機構が阻害されないよう

にしてください。ストラップを強く引っ張り、パテントボタン (ターンボタン) のピンに適当な鳩目にはめ込みます。(本書P6を参照してください)

- パテントボタン (ターンボタン) をピンにセットしてロックします。患者に使用する前に、ベッド固定用ベルトにぴったりと固定されるようにしてください。

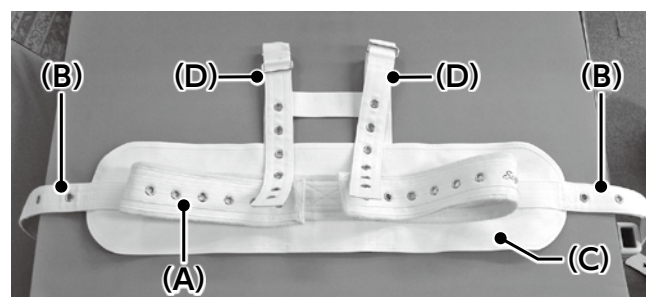


写真1

SEGUFIX胸部クイック調整帯を患者に固定する方法：

- 胸部クイック調整帯 (A) の内側にパテントボタン (ターンボタン) のピンを留めておく穴があります。写真2のように胸部クイック調整帯がぴったりと固定されるように、患者の胸周りのサイズに合った適当な鳩目2箇所ピンを挿入します。
- 胸部クイック調整帯 (A) を患者の胸に巻き付けて、パテントボタン (ターンボタン) で固定します。鳩目が複数ついているため、患者個々の体格に合わせて調整することができます。
- 2本の鳩目ストラップ (D) を肩からかけて、胸部クイック調整帯 (A) の残りの2つのパテントボタン (ターンボタン) で固定します (写真2)。
- 胸部クイック調整帯は胸部にぴったりと固定しますが、きつく締めすぎて、患者の呼吸が阻害されないように注意してください。ベルトと患者の間に看護スタッフのひらいた手が水平に移動させることができる程度に固定します。

- いずれのストラップも患者の顎や咽喉を圧迫することがないようにしてください。
- 全てのパテントボタン (ターンボタン) がしっかりと固定されていることを確認します。パテントボタン (ターンボタン) をピンから引き離すことがなければ、正しく固定されています。



写真2

SEGUFIX手部クイック調整帯および脚部クイック調整帯をベッドに取り付ける方法：

- 手部クイック調整帯 (写真3) および脚部クイック調整帯 (写真4) は、太いベッド固定用 (A)、別々になったパット付きハンドカフ2本 (F) および2本の鳩目ストラップ付きフットカフ (E) から構成されています。
- 手部ならびに脚部クイック調整帯は、SEGUFIX胸部クイック調整帯と同じ手順で取り付けます。

- 2本の鳩目ストラップ (B) が付いている太いベッド固定用ベルト (A) を、患者のそれぞれの手または足の高さのベッドフレーム (可動式ベッドの場合には、ベッドの可動部分のフレーム) に取り付けます。

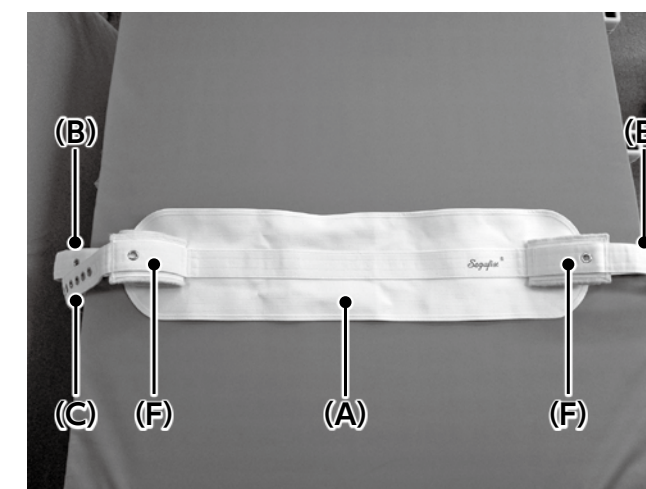


写真3

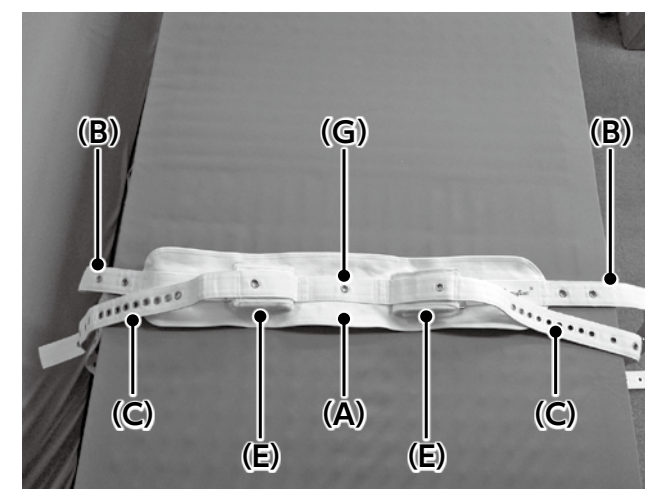


写真4

SEGUFIX手部クイック調整帯およびSEGUFIX脚部クイック調整帯を患者に固定する方法：

- パット付きカフ (E、F) を患者の手首または足首に巻きつけます。巻きつけた後にカフがすり抜けないようにカフの端にはベルクロ® テープが付いています。
- 鳩目ストラップ (C) をカフの金属製バックルに通して、ストラップが金属製バックルの上にかぶせるように引き戻します (写真5)。
- 鳩目ストラップを強く引っ張り、鳩目をパテントボタン (ターンボタン) のピンに通し、ピンにパテントボタン (ターンボタン) をセットしてロックします。
- 脚部クイック調整帯の中心の鳩目 (G) にピンを入れ、両側のフットカフ (E) の鳩目ストラップの鳩目を通して、パテントボタン (ターンボタン) をセットして1箇所ロックします (写真6)。
- ハンドカフおよびフットカフはしっかりと巻き付けますが、血液循環が抑制されないようにしてください。
- 全てのパテントボタン (ターンボタン) がしっかりと固定されていることを確認します。パテントボタン (ターンボタン) をピンからひきはなすことができないければ、正しく固定されています。



写真5

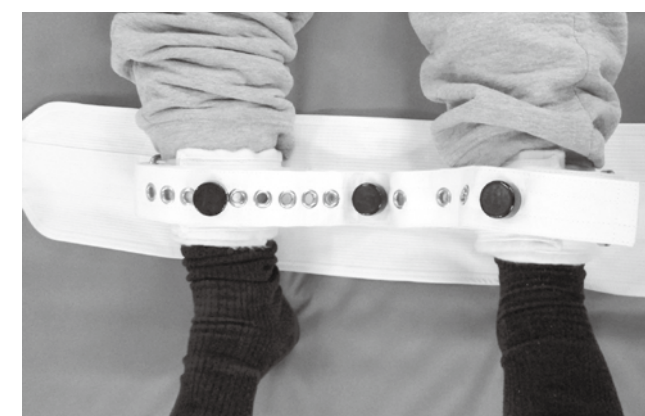


写真6

SEGUFIX太腿部クイック調整帯をベッドに取り付ける方法：

- パット付きストラップ (C) がベッド固定用ベルト (A) の上にくるように、SEGUFIX太腿部クイック調整帯を患者の太腿部の位置に合わせてベッドの上に置きます (写真7)。
- 鳩目ストラップ (B) をベッド両サイドのマットレスとフレーム (可動式ベッドの場合には、ベッドの可動部分のフレーム) の間に通します。ストラップがベッドのフレーム／可動部分のフレームにしっかりと巻きつくようにフレームの手前から外側に向かって強く引っ張ります。このとき、ベッドの可動機構が阻害されないようにしてください。ストラップを強く引っ張り、パテントボタン (ターンボタン) のピンに適当な鳩目をはめ込みます。(本書P6を参照してください)
- パテントボタン (ターンボタン) をピンにセットしてロックします。患者に使用する前に、ベッド固定用ベルトがベッドにぴったりと固定されるようにしてください。

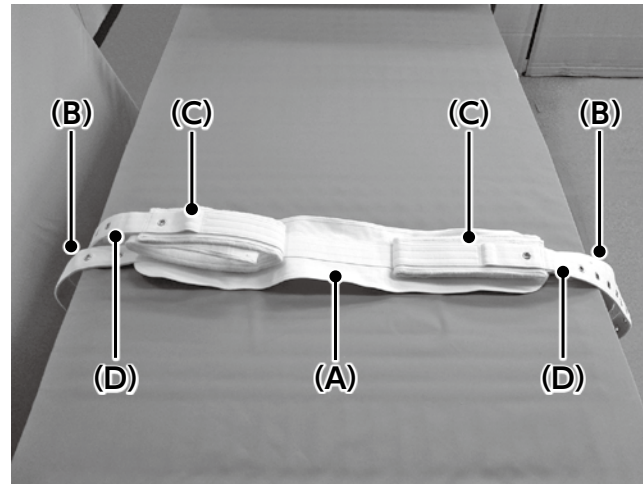


写真7

SEGUFIX太腿部クイック調整帯を患者に固定する方法：

- パット付きストラップ (C) を患者の太腿部に巻きつけます。
- 鳩目ストラップ (D) を金属製バックルに通して、ストラップがバックルの上にかぶさるように引き戻します (写真8)。
- 患者の太腿部に固定用ベルトがぴったりと固定される鳩目を選択します。パテントボタン (ターンボタン) のピンに鳩目ストラップ (D) をかぶせて、パテントボタン (ターンボタン) をピンにセットしてロックします。
- 2本目のストラップも同様の手順で固定します。
- 静止不能な患者の場合には、上記の手順で固定した後、もう一方の太腿部のパテントボタン (ターンボタン) にも鳩目ストラップ (D) を固定します (写真9)。
- ベルトはしっかりと巻き付けますが、両足とも血液循環が抑制されないようにしてください！
- 全てのパテントボタン (ターンボタン) がしっかりと固定されていることを確認します。パテントボタン (ターンボタン) をピンから引き離すことができれば、正しく固定されています。



写真8



写真9

SEGUFIX® コンパクト

用途：患者の最大限の動きを確保すると同時に、患者の抜け出しを防ぐベルトです。

製品構成：コンパクト ×1

※ 取り付けにはパテントボタンセット (ターンボタンセット) ×7 (別売) が必要です。

コンパクトの使用方法

- 写真1のようにベッド上に置きます。患者の腹部部分の鳩目ストラップ (B1、B2) の鳩目にパテントボタン (ターンボタン) のピンを入れます。鳩目ストラップ (B1、B2) をベッド両サイドのマットレスとフレーム (可動式ベッドの場合にはベッドの可動部分のフレーム) の間に通します。ストラップがベッドのフレーム／可動部分のフレームにしっかりと巻きつくようにフレームの手前から外側に向かって強く引っ張ります。このとき、ベッドの可動機構が阻害されないようにしてください。ストラップを強く引っ張り、パテントボタン (ターンボタン) のピンに適当な鳩目にはめ込みます。(本書P6を参照してください)

次に患者の腹部部分にベルト (A1、A2) を患者の腹部に巻き、2箇所の鳩目にピンを入れパテントボタン (ターンボタン) で留めます。

- 金属バックルが付いているベルト (C1、C2) を患者の肩口から引っ張り腹部部分から脚部方向に垂らします。患者の左手側のベルト (C2) の裏地のある鳩目にピンを入れます。次に患者の右脇下から出ているベルト (D1) を (C1) ベルトの3つの通し穴のいずれか (患者の体格に合わせて) 1つに通します。そのまま (C2) のピンに鳩目を入れ、(D2) ベルトの鳩目にもピンを通してパテントボタン (ターンボタン) で留めます (写真2)。

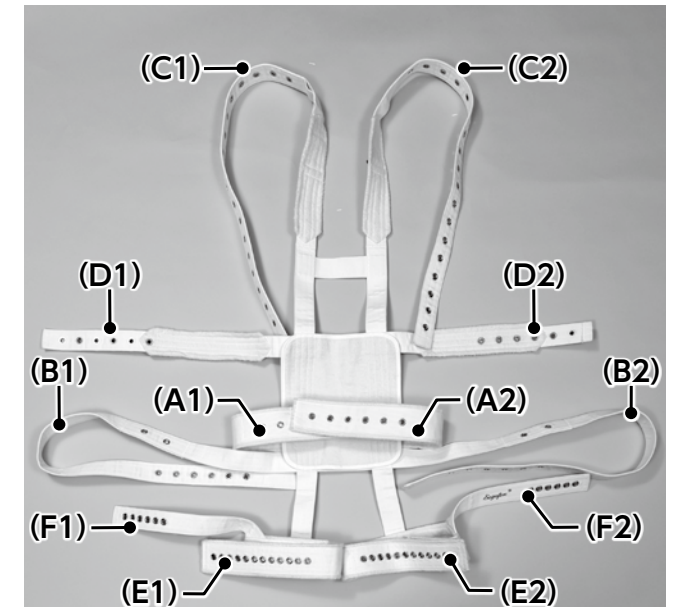


写真1



写真2

- 先に留めていた腹部部分のペントボタン（ターンボタン）を一旦外し、（C1、C2）ベルトを患者の腹部で交差させてそのまま（A1、A2）ベルトと一緒に留めます。
- 次に太もも部分のベルト（E1、E2）の鳩目にピンを入れ患者の太ももに巻きます。その上に（C1、C2）ベルトを重ね一緒にペントボタン（ターンボタン）で留めます（写真3）。
- 最初にベッドに固定しているベルト（B1、B2）ベルトのペントボタン（ターンボタン）を一度外して、（F1、F2）ベルトの鳩目を先程外した（B1、B2）ベルトのピンに通して一緒にペントボタン（ターンボタン）で留めます（写真4）。
- 患者の顎部や咽部がストラップで圧迫されることがないようにしてください。
- ストラップは体にぴったりと装着しますが、締め付けすぎて患者の呼吸を妨げたり、血液循環が抑制されることがないようにしてください。
- 全てのペントボタン（ターンボタン）がしっかりと固定されていることを確認します。
ペントボタン（ターンボタン）をピンから引き離すことができれば、正しく固定されています。



写真3



写真4

SEGUFIX® 車イス用腹部ベルト

用途：車イスを使用している患者の静止が必要な場合に使用

製品構成：車イス用腹部ベルト ×1

※ 取り付けにはペントボタンセット（ターンボタンセット）×2（別売）が必要です。

車イス用腹部ベルトの使用方法

- 患者の腹部部分に巻く鳩目がある腹部用ベルトが車イスの座席側に来るようにセットします。
- 車イス用腹部ベルトの細い鳩目ストラップを車イスの肘掛の下の際間などを通して、そのまま車イスの背中裏に回します（写真1）。
片方の鳩目ストラップに金属製バックルがあるので、その金属製バックルにもう片方の鳩目ストラップを通して折り返してから鳩目にペントボタン（ターンボタン）のピンを入れペントボタン（ターンボタン）で留めます。その際緩みが無いように強くベルトを引っ張り、調整してください（写真2）。
- 患者を車イスに乗せ、患者の腹部に車イス用腹部ベルトを巻き鳩目にペントボタン（ターンボタン）のピンを入れてペントボタン（ターンボタン）で固定します。その際患者の腹部を圧迫し過ぎない程度にぴったりと固定してください（写真3）。
- 全てのペントボタン（ターンボタン）がしっかりと固定されていることを確認します。
ペントボタン（ターンボタン）をピンから引き離すことができれば、正しく固定されています。

SEGUFIX® 車イス用腹部ベルトクラッチ付

用途：車イスを使用している患者の静止が必要な場合に使用

特に座位からのズレを防止したい場合に使用

製品構成：車イス用腹部ベルトクラッチ付 ×1

※ 取り付けにはペントボタンセット（ターンボタンセット）×2（別売）が必要です。

車イス用腹部ベルトクラッチの使用方法

- 患者の腹部部分に巻く鳩目がある腹部用ベルトが車イスの座席側に来るようにセットします。
- 車イス用腹部ベルトクラッチの細い鳩目ストラップを車イスの肘掛の下の際間などを通して、そのまま車イスの背中裏に回します（写真1）。
片方の鳩目ストラップに金属製バックルがあるので、その金属製バックルにもう片方の鳩目ストラップを通して折り返してから鳩目にペントボタン（ターンボタン）のピンを入れペントボタン（ターンボタン）で留めます。その際緩みが無いように強くベルトを引っ張り、調整してください（写真2）。
- 患者を車イスに乗せ、患者の腹部に車イス用腹部ベルトクラッチを巻き鳩目にペントボタン（ターンボタン）のピンを入れてペントボタン（ターンボタン）で固定します。
- 患者の股下から鳩目ストラップ（A）を引っ張り、一度腹部部分のペントボタン（ターンボタン）を外して股下の鳩目ストラップと腹部部分のベルトを1箇所留めます（写真4）。
- 全てのペントボタン（ターンボタン）がしっかりと固定されていることを確認します。
ペントボタン（ターンボタン）をピンから引き離すことができれば、正しく固定されています。



写真1



写真2



写真3

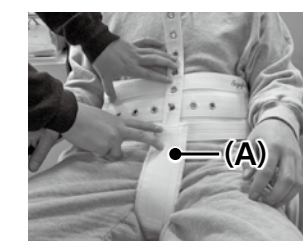


写真4

SEGUFIX® 車イス用腰ベルトボタンタイプ

用途：車イスを使用している患者の静止が必要な場合に使用

製品構成：車イス用腰ベルトボタンタイプ ×1

- ※ この商品を使用する際は、バックレストベルト（別売）が必要になります。
- ※ 取り付けにはパテントボタンセット（ターンボタンセット）×1（別売）が必要です。

車イス用腰ベルトボタンタイプの使用方法

- バックレストベルトの大きなグレー地の通し穴（A）が車イスの正面になるように車イスの背に縦に巻きつけます（写真1）。
その際ベルトは緩みがないようにしっかりと巻きつけてください。
- バックレストベルトの通し穴（A）に車イス用腰ベルトを通し、患者を車イスに乗せます。
- 患者の腹部部分に車イス用腰ベルトを巻き、鳩目にパテントボタン（ターンボタン）のピンを入れパテントボタン（ターンボタン）で留めます。
その際緩みが無いように留めます（写真2）。
- 全てのパテントボタン（ターンボタン）がしっかりと固定されていることを確認します。
パテントボタン（ターンボタン）をピンから引き離すことができれば、正しく固定されています。



写真1



写真2

SEGUFIX® 車イス用サスペンダータイプ

用途：車イスを使用している患者の静止が必要な場合に使用

製品構成：車イス用サスペンダータイプ ×1

- ※ この商品を使用する際は、バックレストベルト（別売）が必要になります。

車イス用サスペンダータイプの使用方法

- バックレストベルトを車イスの背部分に取り付けます。
その際バックレストベルトの小さなループが正面になるようにします（写真1）。
- サスペンダーベルトの黒地の太いストラップが患者の肩にくるように、また茶色のパット部分が患者の股にくるようにし、余ったストラップをバックレストベルトのループに通します（写真2）。
- 患者を車イスに乗せ、患者の身体の正面でサスペンダーベルトのストラップをつなげます。
その際、患者の体型に合わせてストラップを調整し、緩みがないようにして下さい（写真3）。
- ストラップが外れなければ正しく固定されています。



写真1



写真2



写真3

SEGUFIX® 車イス用手部調整帯

用途：車イスを使用している患者の上肢の静止が必要な場合に使用

製品構成：車イス用手部調整帯 ×1

車イス用手部調整帯の使用方法

- 車イスの肘掛部分に患者の上肢を置いて、患者の手首部分にベルトを巻き肘掛部分と一緒にマジックベルトで固定します（写真1）。
- カフは手首にしっかりと巻き付けますが、血液循環が抑制されないようにしてください。
- ベルトがしっかりと固定されていることを確認し、患者の手が外れることがなければ正しく固定されています。



写真1

SEGUFIX® 車イス用脚部調整帯

用途：車イスを使用している患者の下肢の静止が必要な場合に使用

製品構成：車イス用脚部調整帯 ×1

車イス用脚部調整帯の使用方法

- 車イスのフットサポートのアーム部分に車イス用脚部調整帯のストラップを巻き付け固定します（写真1）。
- 患者の両足首にフットカフを巻き付けマジックベルトで固定します。この時血液循環が抑制されないようにしてください。
- ベルトがしっかりと固定されていることを確認し、患者の足が外れることがなければ正しく固定されています。



写真1

SEGUFIX® クラッチ付腹部用ベルト

用 途：通常の腹部用ベルトでは対応することが難しい患者の下方向への体のズレを防ぐ時に使用

製品構成：クラッチ付腹部用ベルト ×1

※ 取り付けにはパテントボタンセット（ターンボタンセット） ×3（別売） が必要です。

クラッチ付腹部用ベルトの使用方法

クラッチ付腹部用ベルトをベッドに取り付ける方法：

腹部用ベルトをベッドに取り付ける方法と同様となりますので、本書のP6を参照してください。

クラッチ付腹部用ベルトを患者に固定する方法：

- 腹部用ベルトの内側には、固定されているパテントボタン（ターンボタン）のピンを留めておく穴があるため、ピンが外れ落ちることはありません。腹部用ベルトを締めたときにパテントボタン（ターンボタン）が患者の体の中心に来るようにピンに通せる鳩目を選びます。
- 腹部用ベルトを患者の胃の上（患者の腰や胸ではなく腹部の高さ）に巻き付け、パテントボタン（ターンボタン）で固定します。複数の鳩目が付いているので、腹部用ベルトを患者それぞれの腹部サイズに合うように調整することができます。
- 患者の股下から鳩目ストラップを引っ張り出し、一度腹部用ベルトのパテントボタン（ターンボタン）を外してそのピンと同じ個所に股下からのベルトと腹部部分と一緒に留めます（写真1）。
- 腹部用ベルトは腹部にぴったりと固定しますが、きつく締めすぎて、患者の呼吸が阻害されるようなことがないように注意してください。ベルトと患者の間に開いた手を水平に移動させることができる程度に固定します。
- 寝返り調整帯の鳩目を幅広のベッド固定用ベルトのピンに通し、ピンにパテントボタン（ターンボタン）をセットします。
- 医師の判断により患者が左右に動くことができるようにベルトを装着させたい場合でも、複数の鳩目があるため、そのように調整することができます。
- いかなる状況でも、寝返り調整帯を必ず使用してください。寝返り調整帯を使用しないと、患者がベッドから転落する恐れがあります。
- 全てのパテントボタン（ターンボタン）がしっかりと固定されていることを確認します（写真2）。パテントボタン（ターンボタン）をピンから引き離すことができれば、正しく固定されています。

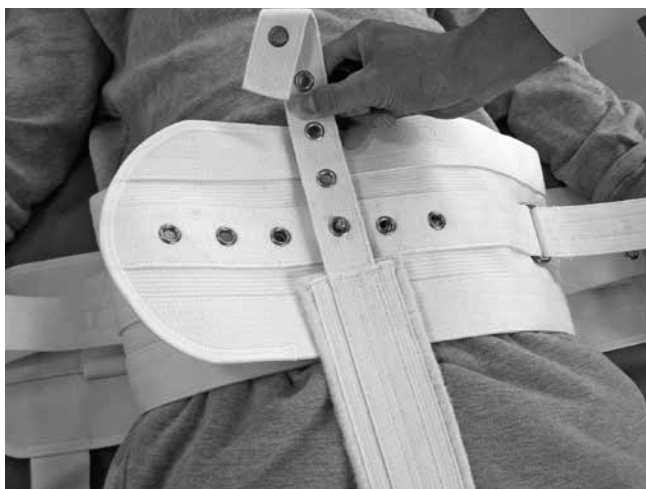


写真1



写真2

SEGUFIX® ストレッチャー用腹部ベルト

用 途：救急搬送時等の担架、ストレッチャーによる移動において身体の固定をサポートする際に使用します。

製品構成：ストレッチャー用腹部ベルト ×1

※ 取り付けにはパテントボタンセット（ターンボタンセット） ×2（別売） が必要です。

ストレッチャー用腹部ベルトの使用方法

ストレッチャー用腹部ベルトを取り付ける方法：

- 患者を担架、ストレッチャーに乗せます。患者の腹部にストレッチャー用腹部ベルトを上から巻きます。
- 二重裏地のある4箇所の鳩目にいずれかにパテントボタン（ターンボタン）のピンを入れ、鳩目ストラップを担架、ストレッチャーのフレームの隙間などに通します。そのまま折り返して緩みがないようにしてピンにパテントボタン（ターンボタン）を入れ留めます（写真1）。
- ストレッチャー用腹部ベルトは腹部にぴったりと固定しますが、きつく締めすぎて、患者の呼吸が阻害されることがないように注意してください。
- 全てのパテントボタン（ターンボタン）がしっかりと固定されていることを確認します。パテントボタン（ターンボタン）をピンから引き離すことができれば正しく固定されています。



写真1

用途：患者の上肢だけを固定したい場合に使用します。

製品構成：ハンドストラップ ×1

※ 取り付けにはパテントボタンセット（ターンボタンセット） ×2（別売） が必要です。

ハンドストラップの使用方法

ハンドストラップをベッドに取り付ける方法：

- ハンドストラップの二重裏地のある鳩目にパテントボタン（ターンボタン）のピンを入れます。
- 患者の手を固定したい位置にあたる部分のベッドフレーム（稼働フレーム）の隙間に最も長い鳩目ストラップ（A）を巻き付けます。
- ベッドフレーム（稼働フレーム）に巻き付けましたら、折り返して先ほどセットしているピンに適当な鳩目をセットします。
- 全てのパテントボタン（ターンボタン）がしっかりと固定されていることを確認します。
パテントボタン（ターンボタン）をピンから引き離すことができれば、正しく固定されています。

ハンドストラップを患者の手首に固定する方法：

- パット面を下に向けて、最も長い鳩目ストラップ（A）をベッドの端側に向けます（写真1）。
- パット部の鳩目にパテントボタン（ターンボタン）のピンを入れます。パット部分を患者の手首に巻きつけます（写真2）。
巻き付けた後にカフがすり抜けないようにカフの端にはベルクロテープが付いています。
- 短い方の鳩目ストラップ（B）を金属製バックルに通して、ストラップがバックルにかぶさるようにしっかりと引き戻します（写真3）。
- 鳩目ストラップ（B）を強く引っ張り、ピンにパテントボタン（ターンボタン）をセットしてロックします（写真4）。
- ハンドストラップのカフは手首にしっかりと巻き付けますが、血液循環が抑制されないようにしてください。
- 全てのパテントボタン（ターンボタン）がしっかりと固定されていることを確認します。パテントボタン（ターンボタン）をピンから引き離すことができれば、正しく固定されています。

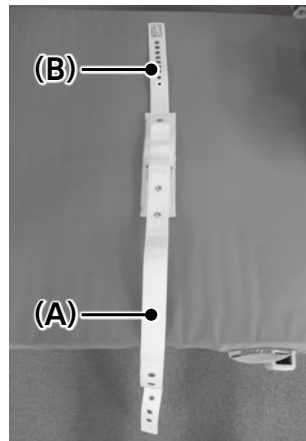


写真1



写真2



写真3



写真4